

南部地区ワークショップ

地域の現状と課題	参加者の意見	役割
【観光】		
地区内の最上川沿いには、すばらしいビューポイントがあり、もっとPRすべきである。 例・グリバーからの月山・葉山の景観やJR鉄橋と残雪などの風景 ・高瀬山からの月山・葉山の景観 ・フットパスからの最上川や山々の眺め	<ul style="list-style-type: none"> 高瀬山からグリバーにかけては、ハイキングや散歩コースとして整備されているが、屋根付きのベンチや四阿を作り、休憩できる場所を設置し、併せて飲み物を提供できるようにする。 景観を活かした写真展や絵画展を開催したり、市の観光パンフレット等へグリバーと併せて掲載しPRを図る。 	協働 協働
グリバーさがえを観光施設として活用すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ツールドさくらんぼやさくらんぼマラソンのコースに組み入れ、多くの人にその良さを知ってもらう。 スポーツだけでなく、一般の人にも利用してもらえるように、飲食物を提供したり、バーベキューができるようにする。 夏の夜はイベントを開催し、冬期はスケートやそり遊びで活用し、集客を目指す。 まだまだ認知度が低いので、看板や案内には「グリバーさがえ」という表示だけでなく、カヌーなど直接的でわかりやすい表現も入れ、市内の主だった施設に設置する。 グリバーさがえまで数方向から大型バスがスムーズに入れるように道路を整備する。 	協働 協働 協働 行政 行政
地区北部にある「つや姫ヴィラージュ」を観光の目玉にする。	<ul style="list-style-type: none"> 体験型の農業を推進し、県内外からつや姫ヴィラージュのファンを迎え入れる。 大型バスが乗り入れられるように鯉屋道路等を整備したり、案内看板等を設置し、観光客の誘導を図る。 増加する空き家を活用した滞在型の農業を展開する。 	協働 行政 協働
地元の伝統野菜である「子姫芋」を特産品として売り出すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> まず地元の芋煮会などで食べてもらって、その美味しさを知ってもらうとともに、いつでも子姫芋を食べられる店舗を設置し、PRを図る。 有名店で食材として使ってもらったり、テレビでの放映により、名前を広く知ってもらう。 	地域 協働
最上川ふるさと総合公園には、多くの人が訪れているが、家族でゆったり一日楽しめる施設にして、地域の活性化につなげて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> センターハウス内に食事のできる場所や公園内に新たに飲食店を設ける。 自動販売機で山形の特産ジュースやJAのアイスを販売する。 公園内のベンチに日除けを設ける。 スケートパークの混雑を解消するため、補助的な練習場を整備する。 	協働 協働 行政 行政
地元出身の詩人で詩壇の芥川賞といわれるH氏賞を受賞した、黒田喜夫氏をもっとPRする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 文化センターや図書館等の公共施設に展示コーナーを設け、知名度の向上に努める。 	協働
【道路】		
旧112号線は歩道が狭く、高齢者が自転車に乗って通行することが怖い。また、地区内は全体的に道路が狭く、通学路もさらに整備充実を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 旧112号線など拡幅が困難な道路については、片側の歩道を広げ自転車が安全に通行できるようにする。 電柱が交通の妨げをしている場合もあり、移設や地中化も検討する必要がある。 主要な道路として鯉屋道路（都市計画道路落衣・島線）の拡幅整備を図る。 	行政 協働 行政
街灯が全体的に少なく、あっても暗い場所が多く整備する必要がある。 例・島から寒河江に抜ける道路（高架橋下）	<ul style="list-style-type: none"> 各町内会から聞き取りを行い、通学路など必要な道路を洗い出し、重点的に街灯を設置する。 	協働
【除雪】		
道路の除雪が荒いところがあったり、雪捨て場が少なかったり、冬期間の雪対策にはまだ課題が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中に雪捨てポイントを設定し、定期的にトラックで回収し、排雪する。 市民浴場の廃湯を利用して道路の消雪を実施する。 南部小学校前の通学路は、幅員が狭いため、重点的な除雪をお願いする。 	協働 行政 行政
【商業】		
地区内に高齢者が歩いていけるようなスーパーなどの商業施設がなく、コミュニケーションを図る場所も少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 南部地区公民館やスーパー跡地で生協等の自動車による移動販売を行い、建物は地区のコミュニティースペースとしても利用する。 農協や地元農家が共同して直売所を出店する。 	協働 地域

地域の現状と課題	参加者の意見	役割
【人口】		
寒河江市の南の窓口として、その交通の便の良さを活かし、減っていく人口対策を講ずるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・島北地区など南寒河江駅に近い交通の便の良い場所に新たに住宅団地を造成し、人口増を目指す。 ・増えている空き家を利用して転入者を迎える。また、古い空き家は、取り壊して更地にしやすいように優遇（助成）制度を設ける。 ・山形市への通勤者に住んでもらうためアパート等を建設する。 ・若い世代が寒河江に住む際に様々な助成制度を設けるなど特典を付ける。 ・中高一貫校など魅力ある学校が寒河江にあれば、住む人が増える。 	協働 協働 行政 行政
【雇用】		
地区内には、企業が少なく雇用の場が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路のインターがあるという地区の好条件を活かして、付近に第2工業団地を開発する。 	行政
【福祉】		
自動車を運転できない高齢者が、病院や買い物に行くため、公共交通機関を利用しようとしても、直近のバス停や駅に行くのに距離があり、苦労している。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内循環バスやデマンドタクシーの配置を要望する。 ・高齢者が悪天時でも利用できるようにバス停に屋根を設置したり、観光客等初めてバス停を利用する人でも場所がわかりやすいように大きく目立ちやすくしてもらいたい。 	行政 協働
一人暮らしの高齢者が増えていて、病気などが心配になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を見守るボランティアを創設し、一人暮らしでもみんなが安心して生活できる地区とする。 ・民生委員や福祉推進委員の活動がスムーズに行えるように行政の支援を拡充する。 	地域 行政
少子高齢化社会を迎えているが、高齢者が子ども達に地区に伝わる行事や昔話などを教える機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼稚園や保育所の行事（農作業、だんご木づくりなど）への参加を企画する。 ・高齢者の特技を活かしたボランティア団体を作り、それを子どもたちへ見せたり話したりして交流の輪を広げる。 	協働 地域
【医療】		
小児科が少なく、市外に通院している子どもも多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院に小児科の夜間対応診療所を開設し、夜中に山形市まで行く必要のない子育て環境を要望する。 	行政
【災害】		
災害時に避難する場所や方法が十分周知されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに避難路が矢印等で分かりやすく示された地図を配布したり、避難誘導看板を設置する。 ・地区内に全て設置された自主防災組織の避難訓練の実施と参加者の拡大が重要である。 ・南部地区の避難所が島と高屋地区に固まっているため、より地域に近い避難所の設置を検討する。 ・夜間避難のための懐中電灯を全戸に配り、玄関に設置するように指導する。また、災害備品についても全戸配布を検討していく。 ・AEDをコンビニ等24時間使用可能な場所に設置する。 	行政 地域 協働 地域 協働
【公民館】		
地区公民館があるが、もっとたくさんの人に利用してもらい、地域の活性化の拠点になってもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外でも利用申請できるように、ネットや郵送での受付を検討してもらう。 ・駐車場を広くし、駐車台数を増やしたり、大型バスの乗降りができれば、町会等団体での利用に便利である。 ・W i F i等ネットが無料で利用できると便利である。 ・今より憩いの場となるように、娯楽面など複合的要素を加味する。 	行政 行政 行政 協働
【組織】		
アパートやマンションなど隣組のない住民とのコミュニケーションを図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ずっとそこに暮らすという意識が薄いため、町内会への加入や各種会費等の納入が困難な場合が多いが、町内会費等を割引したりしながら加入を推進する。 ・地区のレクリエーションへの参加や防災関連行事の声かけを行う。 	地域 地域
消防団に人が集まらず、組織を維持することが大変になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・団員を雇用している企業にもメリットを与え、消防団へ入りやすい環境づくりが必要である。 ・団員のスポーツ施設、飲食施設での割引制度や手当の増額など活動の大変さに見合ったものがあってもよいと感じる。 ・現役の消防団は、市外で働いていて、日中は災害に対応できない場合もあり、OB会を設立して地域の消防活動を手伝ってもらおう。 	協働 協働 協働